（様式１）

**一般社団法人日本外傷学会**

**外傷専門医認定申請書**

西暦　　　　　　年　　　月　　　日

　　日本外傷学会

　　専門医認定委員会　御中

日本外傷学会専門医制度規則および同施行細則にもとづき、外傷専門医として  
申請いたします。

氏　名 ：　　　　　　　　　　　　　　　　　　印

生年月日 ：　西暦　　　　　年　　 　　月 　　　　日

医籍登録番号 ：　　　　　　　　　　　号

医籍登録年月日 ：　西暦　　　　　年　　　 　月　　　　 日

施設名 ：

所属科・部門 ：

施設所在地 ：〒　　　－

施設電話番号 ：（　　　　　）-（　　　　　）-（　　　　　）

施設FAX番号 ：（　　　　　）-（　　　　　）-（　　　　　）

　　　メールアドレス　　：

　　　入会年月日：　　　　　　　　　　　　　　会員番号：

（様式２）

**履　歴　書**

|  |
| --- |
| 最近３カ月以内の  写真貼付  (５×５cm) |

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　男

氏　名：　　　　　　　　　　　　　　　印　　　女

現住所：　〒　　　－

最終学歴：　　　　　　　　　　　　大学

西暦　　　　　　年　　　月卒業

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 職　　　歴 | | |
| 年　　月(注1） | 施設に番号(1,2,3・・)記入 | 事　　　項 |
|  |  |  |

専門医制度施行細則第4章第12条1)の基本領域のうち、専門医を取得している学会名にレをつけてください。

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 日本医学放射線学会 |  | 日本救急医学会 |  | 日本形成外科学会 |
|  | 日本外科学会 |  | 日本整形外科学会 |  | 日本脳神経外科学会 |
|  | 日本麻酔科学会 |  |

その専門医名と認定番号を記入してください。

|  |  |
| --- | --- |
| 専門医名 | 専門医認定番号 |
|  |  |

**注１：年は西暦で記載してください。**

（様式３）

**診療実績　Ａ表：診療症例一覧表**

Ａ-I、　Ａ-II、　Ａ-III表（エクセルで作成された表になります）

以下、ホームページに掲載のエクセル表を使用してください。

（様式４-１）

**診療実績　Ｂ‐I表：重症外傷報告書**

**AIS ４以上が同時に２部位以上の症例（５例）**

**Ａ表の症例番号**

**診療期間（西暦）**　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

（様式４-２）

**診療実績　Ｂ‐I表：重症外傷報告書**

**AIS ４以上が同時に２部位以上の症例（５例）**

**Ａ表の症例番号**

**診療期間（西暦）**　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

（様式４-３）

**診療実績　Ｂ‐I表：重症外傷報告書**

**AIS ４以上が同時に２部位以上の症例（５例）**

**Ａ表の症例番号**

**診療期間（西暦）**　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

（様式４-４）

**診療実績　Ｂ‐I表：重症外傷報告書**

**AIS ４以上が同時に２部位以上の症例（５例）**

**Ａ表の症例番号**

**診療期間（西暦）**　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

（様式４-５）

**診療実績　Ｂ‐I表：重症外傷報告書**

**AIS ４以上が同時に２部位以上の症例（５例）**

**Ａ表の症例番号**

**診療期間（西暦）**　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

（様式５-１）

**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　1.頭頚部　2.顔面　3.胸部　4.腹部　5.骨盤　6.四肢　7.脊椎・脊髄　8.泌尿・生殖器

**A表の症例番号**　　

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-２）

**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　1.頭頚部　2.顔面　3.胸部　4.腹部　5.骨盤　6.四肢　7.脊椎・脊髄　8.泌尿・生殖器

**A表の症例番号**　　

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-３）

**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　1.頭頚部　2.顔面　3.胸部　4.腹部　5.骨盤　6.四肢　7.脊椎・脊髄　8.泌尿・生殖器

**A表の症例番号**　　

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-４）

**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　1.頭頚部　2.顔面　3.胸部　4.腹部　5.骨盤　6.四肢　7.脊椎・脊髄　8.泌尿・生殖器

**A表の症例番号**　　

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-５）

**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　1.頭頚部　2.顔面　3.胸部　4.腹部　5.骨盤　6.四肢　7.脊椎・脊髄　8.泌尿・生殖器

**A表の症例番号**　　

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-６）

**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　1.頭頚部　2.顔面　3.胸部　4.腹部　5.骨盤　6.四肢　7.脊椎・脊髄　8.泌尿・生殖器

**A表の症例番号**　　

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-７）

**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　1.頭頚部　2.顔面　3.胸部　4.腹部　5.骨盤　6.四肢　7.脊椎・脊髄　8.泌尿・生殖器

**A表の症例番号**　　

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-８）

**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　1.頭頚部　2.顔面　3.胸部　4.腹部　5.骨盤　6.四肢　7.脊椎・脊髄　8.泌尿・生殖器

**A表の症例番号**　　

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-９）

**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　1.頭頚部　2.顔面　3.胸部　4.腹部　5.骨盤　6.四肢　7.脊椎・脊髄　8.泌尿・生殖器

**A表の症例番号**　　

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式５-10）

**Ｂ‐II表：部位別症例報告書（AIS ３以上の外傷を部位別に計10例）**

**項目**　1.頭頚部　2.顔面　3.胸部　4.腹部　5.骨盤　6.四肢　7.脊椎・脊髄　8.泌尿・生殖器

**A表の症例番号**　　

**診療期間**　　初診　　　 年　 月　 日　〜　終診　　　 年　 月　 日

**来院時ショック**　　有　　無

**傷病名（AISのfull codeと外傷学会臓器損傷分類2008を併記する。後者がないものは前者だけでよい。）**

**必須手技（数字をマルで囲む）**

1.輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開、2. 胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ、

3.静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保、4.外出血の止血を伴う創縫合処置、5.心嚢穿刺または心膜開窓、

6.蘇生的開胸術、7.その他の胸部手術、8.下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルンによる）

9.緊急開腹止血術（damage control surgery）、10.その他の開腹手術、11.緊急穿頭または開頭手術、

12.鋼線牽引または創外固定、13.経カテーテル動脈塞栓術（TAE）14.成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術

**現病歴**

**初療と検査・診断**

**治療と経過**

注：頭頸部、顔面、胸部、腹部、骨盤、四肢、脊椎・脊髄外傷、泌尿・生殖器について、AIS ３以上の症例を各々１例以上。

同一症例に２部位以上が含まれていてもよいが、頭頸部、胸部、腹部、骨盤で脊椎・脊髄外傷を用いることはできない。

（様式６）

**診療実績　Ｃ表：診療経験数一覧表**

1. 臨床経験症例総数　（到達目標３―(１)）

　　　　　　　　　　　例　（ISS16以上、60例以上）

1. 重症多発外傷および部位別経験症例数　（到達目標3―(2)）

AIS ４以上が２部位以上の症例 　　　　 　　　例　（10例以上）

頭頚部外傷（AIS ３以上） 　　　例　（10例以上）

顔面外傷（AIS ３以上） 　　　例　（ 3例以上）

胸部外傷（AIS ３以上） 　　　例　（10例以上）

腹部・骨盤内臓器外傷（AIS ３以上） 　　　　 　　　例　（10例以上）

骨盤・四肢外傷（AIS ３以上） 　　　　 　　　例　（10例以上）

脊椎・脊髄外傷（AIS ３以上） 　　　　　　例　（４例以上）

泌尿器系外傷（AIS ３以上） 　　　　 　　　例　（３例以上）

　　　　うち、来院時心肺停止症例　 　　　例　（５例以下）

1. 必須手技経験数（14項目中8項目以上が必要）　（到達目標３―(３)）

輪状甲状靭帯穿刺・切開または気管切開 　　　例

胸腔穿刺脱気または胸腔ドレナージ 　　　例

静脈切開、骨髄穿刺または中心静脈確保 　　　例

外出血の止血を伴う創縫合処置 　　　例

心嚢穿刺または心膜開窓 　　　例

蘇生的開胸術 　　　 　　　例

その他の胸部手術 　　　例（うち助手　例）

下行大動脈遮断（大動脈閉鎖バルン） 　　　例

緊急開腹止血術（damage control surgery） 　　　例

その他の開腹手術 　　　例（うち助手　例）

緊急穿頭または開頭手術 　　　例（うち助手　例）

鋼線牽引または創外固定 　　　例

経カテーテル動脈塞栓術（TAE） 　　　例

成傷器遺残の鋭的外傷に対する手術 　　　例（うち助手　例）

　　注：２. 重症多発外傷および部位別経験症例（到達目標３―(２)）に該当する症例、および

３. 必須手技（到達目標３―(３)）を行った症例が、Ａ表（症例一覧）で分かるようにすること。

（様式７）

(研修修了証明書番号　　　)注3

外傷研修修了証明書

氏名：

上記の者は当施設において

西暦　　　　年　　　月より　　　　年　　　月までの　　　年　　ヵ月

研修を行い終了したことを証明します。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　年　　　　月　　　　日

施　設　名：

指導医師名(自署のこと) 　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印

（指導医師が他の施設に異動している際は、その者の証明であることが望ましい。）

指導医師が有する専門医・指導医の種類と認定番号を記載してください。

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 種類 | 番号 |
| 専門医 |  |  |
| 指導医 |  |  |

所属長職名

（外傷研修施設の所属科・部の長）

所属長氏名(自署のこと)　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　印

■上記研修施設が次のいずれ~~か~~にあてはまるかレをもって示してください（注１、２）。

１．外傷専門医研修施設　(施設認定番号：　　　　　　　　)

２．基本領域の研修施設

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 日本医学放射線学会 |  | 日本救急医学会 |  | 日本形成外科学会 |
|  | 日本外科学会 |  | 日本整形外科学会 |  | 日本脳神経外科学会 |
|  | 日本麻酔科学会 |  |

注１：外傷専門医研修施設であれば、基本領域の施設のチェックは必要ありません。

注２：外傷専門医研修施設または基本領域の研修施設いずれにも該当しない施設は１.２の記入はありません。

注３：研修した施設が複数の場合は、その施設毎に提出してください。

　　（様式８）

**外傷研修施設一覧表（注１、２）**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 施設名 | 研修期間 西暦で記入 | 実行研修期間 | 修了証明書 |
| （○○病院○○科） | （開始年月～終了年月） | （月で記入） | 番号（注３） |
| 外傷専門医研修施設 |  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
| 基本領域の研修施設 |  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
| その他施設 |  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  | 月 |  |
|  |  |  | 月 |  |
|  | 氏名： |  | 合計（月） |  |

注１：外傷に関する研修を行った施設を記入してください。

注２：外傷専門医研修施設での研修が５年に満たない場合には、基本領域の施設や、その他の施設での研修歴を記入して下さい。

注３：「修了証明書番号」は、様式７の研修修了証明書番号を記入してください。

（様式９）

**日本外傷学会学術集会参加証明書**

日本外傷学会学術集会参加記録

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 開催回 | 会長名 | 開催日 | 参加章番号 |
| １ | 第　　　回 |  | 西暦　　　　年　　月 |  |
| ２ | 第　　　回 |  | 西暦　　　　年　　月 |  |
| ３ | 第　　　回 |  | 西暦　　　　年　　月 |  |
| ４ | 第　　　回 |  | 西暦　　　　年　　月 |  |
| ５ | 第　　　回 |  | 西暦　　　　年　　月 |  |

１）直近５年間での最低３回の日本外傷学会学術集会参加を証明してください。

２）参加記録に記入するとともに、参加章または参加章のコピーを参加章貼付表（別紙・次頁）に貼付するか、

　 発表者等は抄録集のコピーなど参加を証明するものを添付してください。

（様式９別紙）

**日本外傷学会学術集会参加証明書（参加章貼付表）**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 参加章貼付 |  | 参加章貼付 |

|  |  |
| --- | --- |
| 参加章貼付 | ・参加章または参加章のコピーを別紙（次頁）に貼付するか、発表者等は抄録集のコピーなど参加を証明するものを添付してください。 |

(様式10)

**学術活動実績表**

１)**学術論文**（注１）

(１) 日本外傷学会雑誌

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 添付資料番号 | 題　名 | 刊行年・巻・頁-頁 | 筆者 |
|  |  |  | 筆頭  共同 |
|  |  |  | 筆頭  共同 |
|  |  |  | 筆頭  共同 |

(２) その他の学術論文

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 添付資料番号 | 題　名 | 雑誌名・刊行年・巻・頁-頁 | 筆者 |
|  |  |  | 筆頭  共同 |
|  |  |  | 筆頭  共同 |
|  |  |  | 筆頭  共同 |

注1：外傷診療に関する論文で、査読により採用された直近の筆頭論文１編以上を含むこと。「手引き」参照のこと。

２) **学会・研究会発表**（注２）

(１) 日本外傷学会

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 添付資料番号 | 開催回 | 年月日 | 演題種別 | 演題名 |
|  |  |  | シンポ・パネル  ワーク・一般 |  |
|  |  |  | シンポ・パネル  ワーク・一般 |  |
|  |  |  | シンポ・パネル  ワーク・一般 |  |

(２) その他の学会・研究会

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 添付資料番号 | 学会名 | 年月日 | 演題種別 | 演題名 |
|  |  |  | シンポ・パネル  ワーク・一般 |  |
|  |  |  | シンポ・パネル  ワーク・一般 |  |
|  |  |  | シンポ・パネル  ワーク・一般 |  |

注２：外傷診療に関する発表で、筆頭者として３題以上、その内１題以上は日本外傷学会において発表したもの。最近５年間におけるもの。

(様式11)

**ＪＡＴＥＣ研修コース**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 開催年月 | コース名 | 開催場所 | 参加・講師・主催の別 |
|  |  |  | 参加・講師・主催 |
|  |  |  | 参加・講師・主催 |
|  |  |  | 参加・講師・主催 |
|  |  |  | 参加・講師・主催 |
|  |  |  | 参加・講師・主催 |
|  |  |  | 参加・講師・主催 |

|  |
| --- |
| ※　参加・講師・開催を証明するものを添付すること（注１） |

注１：参加証明証は日本外傷診療研究機構で発行していただけます。

(様式12)

**災害活動実績表**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 開催年月 | 訓練・研修コース名 | 開催場所 | 参加・主催の別 |
|  |  |  | 参加・主催 |
|  |  |  | 参加・主催 |
|  |  |  | 参加・主催 |
|  |  |  | 参加・主催 |
|  |  |  | 参加・主催 |
|  |  |  | 参加・主催 |

|  |
| --- |
| ※　参加・開催を証明するものを添付すること |

（様式13）

**外傷専門医推薦書（注１）**

氏　名　：

施設名　：

所　属　：

上記の者は私が指導した、あるいはよく知る者であり、履歴書、外傷専門医診療実績および

研修終了証明書を詳細に確認した結果、私の責任をもって外傷専門医に推薦いたします。

西暦 　　年 月 　日

施設名　：

部　署　：

専門医氏名：　 　　　　 　 　 　　印

専門医番号　：

注１：申請時の所属施設が日本外傷学会の外傷専門医研修施設である申請者は外傷専門医１名の推薦書を提出してください。それ以外の所属施設からの申請者は外傷専門医３名の推薦書を提出してください。